

## 児童が書くことの喜びを感じられる授業を目指して

－「書くこと」における単元構想の工夫と効果的な対話を通して－

栗原市立若柳小学校 千葉 直人

### 1 主題設定の理由

#### (1) 授業づくりに関わる課題から

これまで私が行ってきた国語科の「書くこと」の領域における授業では、教科書に示されている題材どおりに進めることが多かった。そのため、教科書に掲載された例に沿って書くことにとどまり、児童が主体的に取り組む授業とは言えなかった。また、相手や目的に応じて伝えようとする意識が低く、書いたことを推敲したり、共有したりする意味を見いださせることも難しいと感じていた。

#### (2) 児童の実態から

標準学力調査（4月実施）において、国語科の「書くこと」の領域は全国平均を下回る結果であった。特に、自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことに課題が見られた。また、記述式の問題は約半数が無解答であった。

さらに、4年生30名を対象にした国語科の「書くこと」の領域の学習に関する意識調査（6月実施）では、児童の約40%が文章を書くことを苦手と感じていた。その理由を尋ねると、文章を書くことを面倒だと思っていたり、自分の考えを言語化するのが難しいと感じていたりする児童が多かった。

以上を踏まえ、指導事項を明確にして児童の実態を踏まえた単元構想を工夫し、児童の学習に対する意欲を高めること、指導事項に関わる重要な活動の場面では対話を取り入れ、指導事項を押さえながら自身の考えを広げたり、深めたりさせて書く力を確実に高めさせることで、児童に書くことの喜びを味わわせたいと考え、本主題を設定した。

### 2 研究の内容と方法

#### (1) 研究の内容

本研究では、「書くこと」における単元構想の工夫と効果的な対話を通して、児童が書くことの喜びを感じられる授業を追究していく。「書くことの喜びを感じられる授業」とは、「前よりも文章の内容を具体的に書けるようになった」「どのように書けばよいか分かった」と実感できる授業と考えた。そのために、以下の手立てを講じていく。

##### ① 主体的な学びにつなげる導入と振り返りの工夫

言語活動として児童が「書いてみたい」と思えるような題材を設定し、相手や目的を明確にして文章を書く力を高めさせる。また、1単位時間の導入で

は、第1時に立てた学習計画を基に、単元のゴールに向けて必要なことを考えさせ、出てきた発言を整理しながら学習課題を設定する。さらに、1単位時間の振り返りと単元の振り返りでは、どんなことができるようになったか、学習したことをどんなことに生かせそうかを自分の言葉でまとめさせ、自身の学びや変容を自覚させる。

##### ② 自分の考えを広げたり深めたりするための対話の設定

教師が作成した良い文章の例と改善が必要な文章の例を比較させる。その際、友達や自分自身と対話をしたり、資料と対話をしたりしながら文章を書くときのポイントをつかませることで、書くための材料（書く内容を考える際の素材）を想起しやすくさせる。また、材料の中からどれが相手や目的に合っているか、文章をより具体的にするにはどうしたらよいかなどの観点で友達と対話をする場面を設定することで、伝えたいことを明確にさせる。

#### (2) 研究の方法

本研究の手立ての有効性を検証するため、4年生を対象に授業実践を行い、以下の方法で検証する。

①児童のノートやワークシートへの記述、児童の作品、対話の様子、児童の振り返りの記述をテキストマイニングで解析した結果を分析する。

②事前と事後の意識調査の結果（令和5年6月、7月、10月実施）から変容を見る。

### 3 授業実践Ⅰの取組

#### (1) 単元について

##### 単元名「お礼の手紙を書こう」

本単元は、〔思考力、判断力、表現力等〕のB(1)アを重点指導事項とし、「相手や目的を意識して、集めた材料から書くことを選んだり比較したりして、伝えたいことを明確にすることができること」を目標に設定した。

#### (2) 手立てについて

##### ① 主体的な学びにつなげる導入と振り返りの工夫 ア 児童が興味・関心を高める言語活動と学習課題の設定

相手や目的をより明確にして書くため、「自分を支えてくれている人にお礼の手紙を書く」という言語活動を設定した。また、学習課題の設定では、例えば、第2時の手紙に書く材料を整理する学習において、単元のゴールを確認し、手紙を読んで相手にど

んな気持ちになってほしいかを考えさせたり、学習内容の見通しを持たせたりしながら、児童の発言を生かして学習課題を設定した。

イ 自身の学びや変容を振り返る活動の設定

1単位時間を振り返る活動では、例えば、第2時の手紙を書くための材料を整理させたときの振り返りでは、「相手に伝わる手紙にするためにどんなことに気を付けて書くか」という観点で書かせた。また、単元を振り返る活動では、社会科の学習と関連させ、クリーンセンター見学のお礼の手紙を書かせた。

② 自分の考えを広げたり深めたりするための対話の設定

ア よりよい書き方、内容に気付かせるための対話

学習のポイントをつかませ、手紙を書く活動に生かせるようにするため、手紙を書かせる前に良い文章の例と改善が必要な文章の例を比較させた(図1)。

様	二〇二三年七月六日	若柳小学校 四年二組	千葉 直人	二〇二三年七月六日															

図1 良い文章の例(上)と改善が必要な文章の例(下)

イ 伝えたいことを明確にさせるための対話

相手に手紙で伝えたいことをより明確にさせるため、本文に書く材料の中から、どれが相手や目的に合った材料か、他にふさわしい材料はないかという観点で材料メモを基にペアで対話をさせた。

(3) 手立てを受けての児童の姿

① 主体的な学びにつなげる導入と振り返りの工夫

ア 児童が興味・関心を高める言語活動と学習課題の設定

言語活動では、自分を支えてくれている人として「YouTuber」「お世話になった先生」などを挙げ、手紙を書くための材料を具体的に想起し、相手意識、目的意識を持続させて書く活動に取り組むことができた。また、第2時の学習課題を設定する際に尋ねたことを常に意識させることで、相手意識を持って書いたり推敲したりする姿が見られた。

イ 自身の学びや変容を振り返る活動の設定

手紙を書くための材料を集めたときの振り返りでは、「相手のことを考えて書く」「相手に感謝の気持ちが伝わるように書く」など、相手や目的を意識した記述が見られた。また、クリーンセンター見学の

お礼の手紙を書く学習では、「職員の方が喜ぶように書く」など、相手を意識し、見学で印象に残っていることを具体的に記述していた。

② 自分の考えを広げたり深めたりするための対話の設定

ア よりよい書き方、内容に気付かせるための対話

手紙の例を基に友達と対話をしたり、個人で手紙の例を何度も読み返したりした。その後の全体共有では、手紙の本文では相手が喜ぶような材料を具体的に書くとよいことや目上の人に対しての言葉遣いに気を付けるとよいことなどに気づき、手紙を書く活動に生かしていた。

イ 伝えたいことを明確にさせるための対話

前時までに手紙の中心となる本文に書きたいことまで考えさせたため、自分が良いと思った材料を対話によって見直す必要感を感じていた児童は少なかった。

(4) 授業実践Ⅰの成果と課題(○成果、●課題)

① 主体的な学びにつなげる導入と振り返りの工夫

○ 授業後の意識調査では授業実践Ⅰ前よりも書くことが好きと回答した児童が86%おり、児童が相手意識を持ちやすい題材を設定することで書くことに対する意欲が高まったと考えられる。

○ 資質・能力を活用する場面を設定することで、本単元で身に付けた力を見学のお礼の手紙を書く場面でも活用できることを理解させたり、書く力の高まりを実感させたりすることができた。

● 1単位時間を振り返る活動では、教師が授業の中で児童の発言と指導事項とを結び付けることができず、自身の学びや変容を具体的に書かせることができなかった。授業実践Ⅱでは、児童にどのような記述をさせたいかを考え、単元もしくは1単位時間で指導すべき事項を明確にしていきたい。

② 自分の考えを広げたり深めたりするための対話の設定

○ 手紙の本文には相手が喜ぶ材料を具体的に書くことと振り返りで記述する児童が多く、友達や手紙の例などと対話をしたことを生かしている姿が見られた。

● 教師が指導事項を踏まえた学習過程を組むことができず、児童に対話をする必要感を高めることができなかった。書くこと材料をたくさん集め、比較したり分類したりして文章の中心となるものを決めるために対話を設定すると児童の必要感が高まり、考えが深まるのではないかと考える。

4 授業実践Ⅱの取組

(1) 単元について

単元名『「ふるさとの食」の良さを伝えるリーフレットを書こう』

本単元は、〔思考力、判断力、表現力等〕のB(1)

ウを重点指導事項とし、「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること」を目標に設定した。

(2) 手立てについて

① 主体的な学びにつなげる導入と振り返りの工夫  
ア 児童が興味・関心を高める言語活動と学習課題の設定

相手や目的をより明確にし、主体的な学びが展開できるようにするため、「地域に伝わる料理や特産品の良さを4年生の保護者に伝える」という言語活動を設定した。また、1単位時間の導入では、第1時で立てた学習計画を基に、本時ほどのように学習を進めればよいか、どうすれば1単位時間もしくは1単元の学習が充実するかを尋ねた。

イ 自身の学びや変容を振り返る活動の設定

1単位時間を振り返る活動では、本時の学びや、前時までの学びと本時の学びとの書く際のポイントのつながりを振り返らせたりした。また、単元を振り返る活動では、単元の学習が今後の生活にどんな意味を持つかを考えさせた。

② 自分の考えを広げたり深めたりするための対話の設定

ア よりよい書き方、内容に気付かせるための対話

リーフレットを書く際のポイントを押さえさせ、清書に生かせるようにするため、下書きを書かせる前にリーフレットの良い例と改善が必要な例を提示し、友達や自分自身、リーフレット例との対話を通して様々な気付きを促した（図2）。

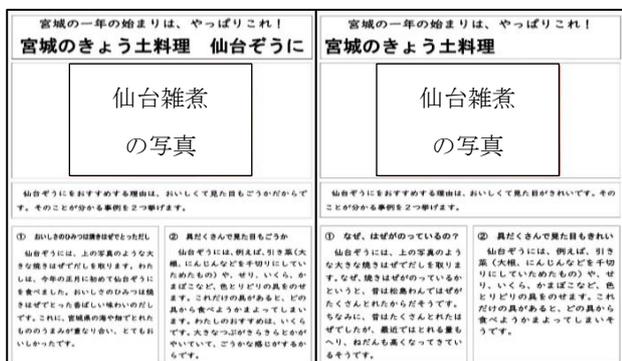


図2 リーフレットの良い例(左)と改善が必要な例(右)

イ 伝えたいことを明確にさせるための対話

対話の目的を明確にし、児童の発言をつなげて作った観点に沿って友達や自分自身と対話をしたり、自分が書いたリーフレットと対話をしたりする場面を設定した。ペアで下書きを読み合い、よりよい事例にするための対話では、自分が工夫したところを伝え、児童の実態を想定して作成したリーフレット例で確認した観点に沿って読み合わせをさせた。

(3) 手立てを受けての児童の姿

① 主体的な学びにつなげる導入と振り返りの工夫  
ア 児童が興味・関心を高める言語活動と学習課題の設定

リーフレット例を提示すると、「1枚の紙にまとめ

られている」「おすすめするものの理由や説明が書かれている」など、リーフレットの特徴や魅力について考えていた。1単位時間の導入では、例えば、第7時のリーフレットの下書きを見直す学習で、「現段階で食べたいって思ってもらえそうですか」と尋ねたところ、「家族に食べたいと思ってもらえるような内容にする」「事例に書かれている内容を見直す」など児童の発言を生かして学習課題を設定したことで、児童は学習のポイントを意識して学習に取り組むことができた。

イ 自身の学びや変容を振り返る活動の設定

おすすめするものの良さを伝えるために情報を収集、整理した際の振り返りでは、「考え、理由、事例のつながりを意識して整理していた友達が参考になった」という児童の発言から、自分の整理したものが考え、理由、事例がつながっているかをその場で再度確認する姿が見られた。また、単元を振り返る活動では、児童は「相手に自分の考えを伝えるときに考え、理由、事例のつながりを意識するとよい」などと考えていた。

② 自分の考えを広げたり深めたりするための対話の設定

ア よりよい書き方、内容に気付かせるための対話

リーフレットの良い例と改善が必要な例を提示すると資料との対話が始まり、2つの例を比較しながらよりよい書き方や内容を考える姿が見られた。その後の全体共有では、考えを支える理由や事例との関係に気を付けて書くことなどに気付き、リーフレットの文章を書く活動に生かそうとしていた。

イ 伝えたいことを明確にさせるための対話

よりよい事例にするための対話では、教師が下書きを見直す際の観点を焦点化できていなかったため、友達にどのような質問をすればよいか分からなかったり、文章を書けたことに満足していたりする児童が多かった。そのため、ペアで対話をする必要感を感じていた児童は限定的で、対話を通して考えを深められた児童も少なかった。

(4) 授業実践Ⅱの成果と課題（○成果、●課題）

① 主体的な学びにつなげる導入と振り返りの工夫

○ 授業実践Ⅰの課題を踏まえ、単元もしくは1単位時間の学習課題の設定の際に教師が指導事項を意識した発問や問い返しをした。その結果、児童の振り返りには「考え」「理由」「事例」という言葉を使った振り返りの記述が見られるなど、自身の学びや変容を自覚させることができた。

● 第1時にリーフレットの特徴や魅力について考えさせることはできたものの、児童の興味・関心を高めるまでには至らなかった。リーフレット例をどのような手順で提示するか、指示や声掛けの内容を精選していくことで、更に児童の興味・関心を高めることができたのではないかと考える。

② 自分の考えを広げたり深めたりするための対話

の設定

- 指導事項をリーフレットの良い例と改善が必要な例という形で具体的に提示し、身に付けさせたい内容を児童に気付かせることで、文章に書く内容を想起しやすくなり、自分の考えを広げることにつながった。
- 学習計画に立ち返り、リーフレットを書く際のポイントを確認し、4年生の保護者により伝わるような事例の書き表し方について再度考えさせる学習活動が不足していた。例えば、児童の下書きの中で不足していた味や食感を具体的に書くという観点を基に対話を設定すると児童の必要感が高まり、考えを深められたのではないかと考える。

5 まとめ

(1) 意識調査の結果から

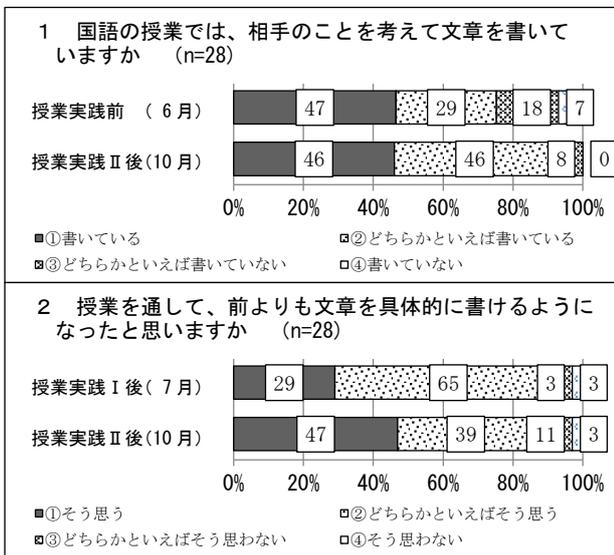


図3 意識調査の変容

6月と10月の意識調査の結果を比較すると、「国語の授業では、相手のことを考えて文章を書いているか」という質問で「書いている」「どちらかといえば書いている」と回答した児童の割合は16%増えた(図3)。授業実践Ⅱのリーフレットの事例を書く際には、「おつまみにおすすめ」など、読み手である保護者を意識して記述する児童も見られた。相手意識を持って書かせることは授業実践Ⅰから継続して取り組んでおり、その良さを実感し、書くことに生かしているからではないかと考える。

「授業を通して、前よりも文章を具体的に書けるようになったと思いますか」という質問で「そう思う」と答えた児童が18%増えた。授業実践Ⅱでは、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にし、相手や目的に応じてどのような事例を書けばよいか理解が深まったからだと考える。また、自分で書くことを決め、良い例と改善が必要な例の比較から書くポイントを押さえたり、友達や自分自身、資料との対話を通して文章をよりよいものにした

したものも保護者にも読んでもらうなど、相手意識や目的意識を高める学習を積み重ねてきたことも要因ではないかと考える。

しかし、授業実践Ⅰ後に比べ、「どちらかといえばそう思わない」と答えた児童が9%増加した。これは、言語活動の設定が影響したのではないかと考える。授業実践Ⅱよりも授業実践Ⅰの方が自分の気持ちを込めやすい対象(お世話になった人)や内容(感謝の気持ち)だったため、書きづらさを感じた児童もいたと考えられる。

(2) 研究の成果と課題 (○成果、●課題)

① 主体的な学びにつなげる導入と振り返りの工夫

○ 児童の振り返りの記述をテキストマイニングの単語出現頻度で解析すると、「考え」「理由」「事例」が多く出現し、児童が単元の指導事項を意識して文章を書いていたという結果が得られた。また、単元の指導事項を踏まえ、自分を支えてくれている人にお礼の手紙を書いたりするなど、児童が「書いてみたい」と思えるような題材を設定し、相手意識や目的意識を高められるような発問や振り返りを行うことで、主体的に文章を書かせることができたと言える。

○ 単元のゴールに向け、児童の発言をつなげて学習計画を立てたり、学習課題を設定したりすることで、見通しや興味・関心を持たせ学習に取り組ませることができた。

○ 1単位時間の振り返りや単元の振り返りでは、友達の良いところを取り入れようとしたり、学習したことを生かそうとしたりする記述が見られるなど、自身の学びや変容を振り返る活動は、主体的な学びにつなげる上で大変有効であった。

② 自分の考えを広げたり深めたりするための対話の設定

○ 指導事項の内容を押さえた書き方の良い例と改善が必要な例を基に対話させたことで、児童はどのように書けばよいか具体的なイメージをつかむことができ、意欲的に書くことに取り組むとともに、より多くの考えを表出していた。

● 「効果的な対話」を通して「書く力」を高めるためには、児童に対話が必要だと思わせる学習過程を組む必要がある。特に、重点指導事項に関わる学習場面では、児童に文章をよりよいものにしたと思わせるために、相手や目的、対話をするときの指導事項に沿った観点に基づいて見直す必要感が高まるような手立てを講じることが大切だと考える。

(3) 今後の取組

今後は低学年や高学年でも実践し、本研究の有用性について更に検証を重ねていく必要がある。また、研究の課題で述べた「効果的な対話」を設定するためにはどのような手立てが有効であるかを更に検証し、書くことの喜びを多くの児童に感じさせたい。